



2026年（令和8年）2月24日午後2時

府政記者会 会員各位
関西空港記者会 会員各位
水産経済新聞 みなと新聞 各位

イカナゴしんこ漁況予報を発表 自主休漁となった過去2年と同水準の資源量と予測

大阪湾の春の風物詩、イカナゴ漁の今年の漁況見通しを発表します。

「今年の大阪湾のイカナゴ漁開始時におけるしんこ[※]の資源量は昨年並みと予測され、不漁が続いている近年中でも最低レベルであると考えられます。また、2月下旬～3月上旬時点でのしんこの大きさは、昨年よりも大きいでしょう。」

大阪湾で操業する漁業者は、毎年、イカナゴの資源量や成長に応じて解禁日や終漁日を決めて操業を行っています。

環農水研水産技術センターでは毎年、1月から大阪湾におけるイカナゴの仔魚の出現状況、水温、季節風の状況などのデータを集め、資源量や成長等の予測を行い、これをまとめた漁況予報は解禁日等を決めるための基礎資料として活用されています。

今年度は1月6日以降に3回の調査を実施し、結果をまとめましたので、別紙のとおり「イカナゴしんこ漁況予報」として発表します。

Web ページでの閲覧は以下の URL または右の二次元コードから

「大阪湾イカナゴしんこ漁況予報」

<https://www.knsk-osaka.jp/suisan/gijutsu/ikanago/index.html>



※イカナゴは主に12月下旬から1月上旬に卵を産みます。

卵から孵化したばかりでひれや骨格が出来上がっていない発育段階を「仔魚（しぎょ）」といいます。生まれてから約2ヶ月、全長3—4センチメートルに育ったイカナゴの子供は関西では「しんこ」と呼ばれています。